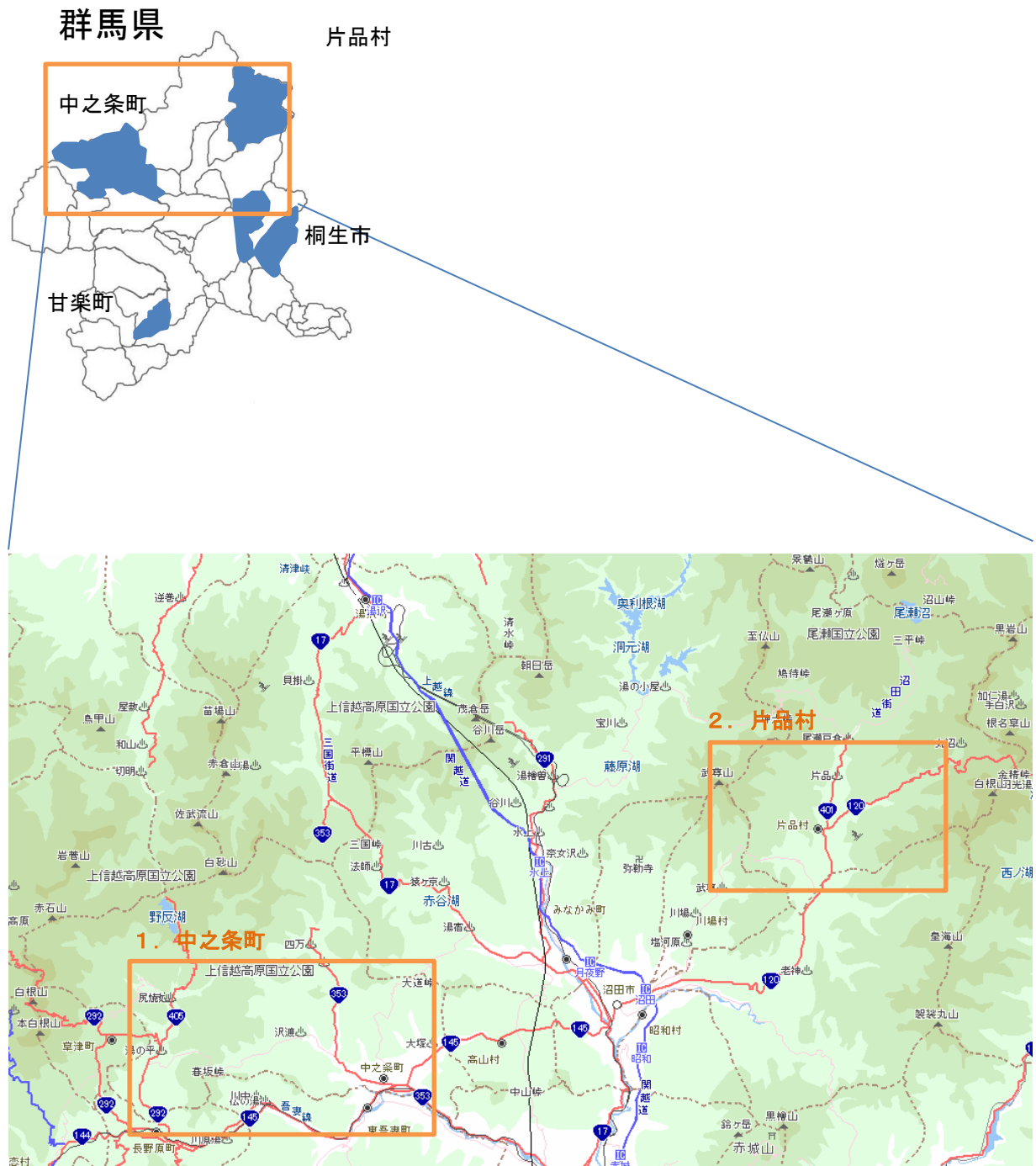


① 申請者	◎群馬県（桐生市、甘楽町、中之条町、片品村）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
かかあ天下一ぐんまの絹物語ー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっている。 「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場こうばを訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。 			

市町村の位置図（地図等）

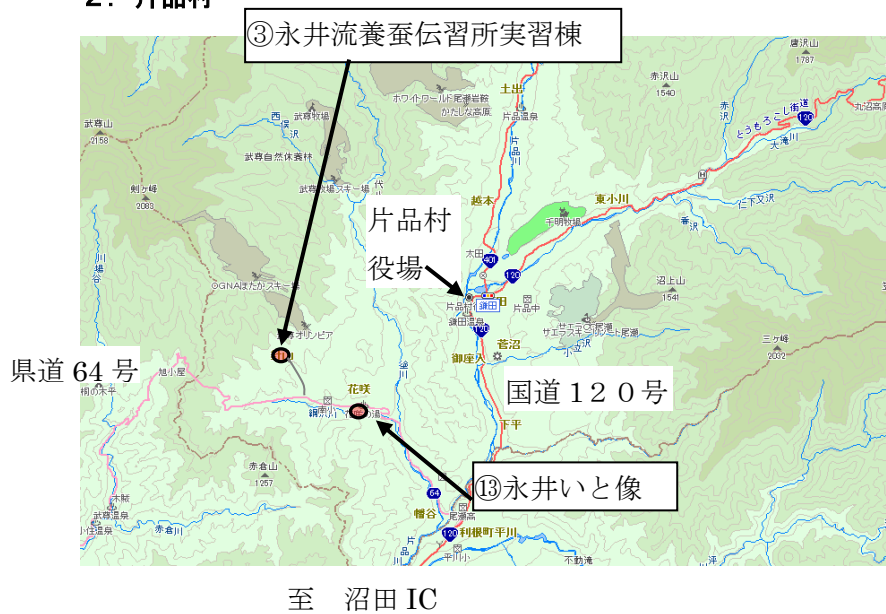


構成文化財の位置図 (地図等)

1. 中之条町



2. 片品村



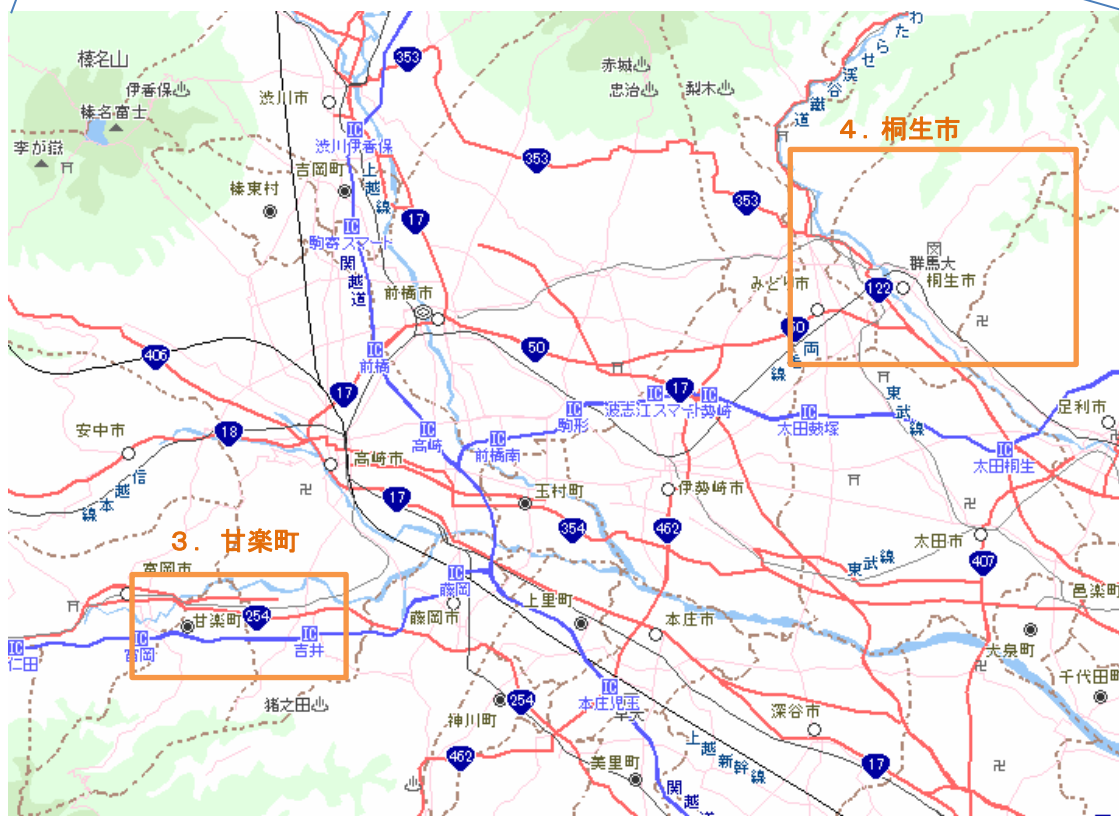
群馬県

中之条町

片品村

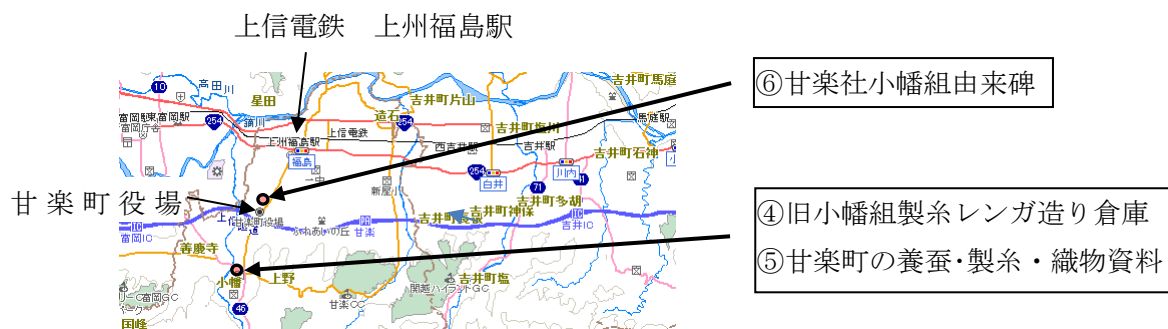
桐生市

甘楽町



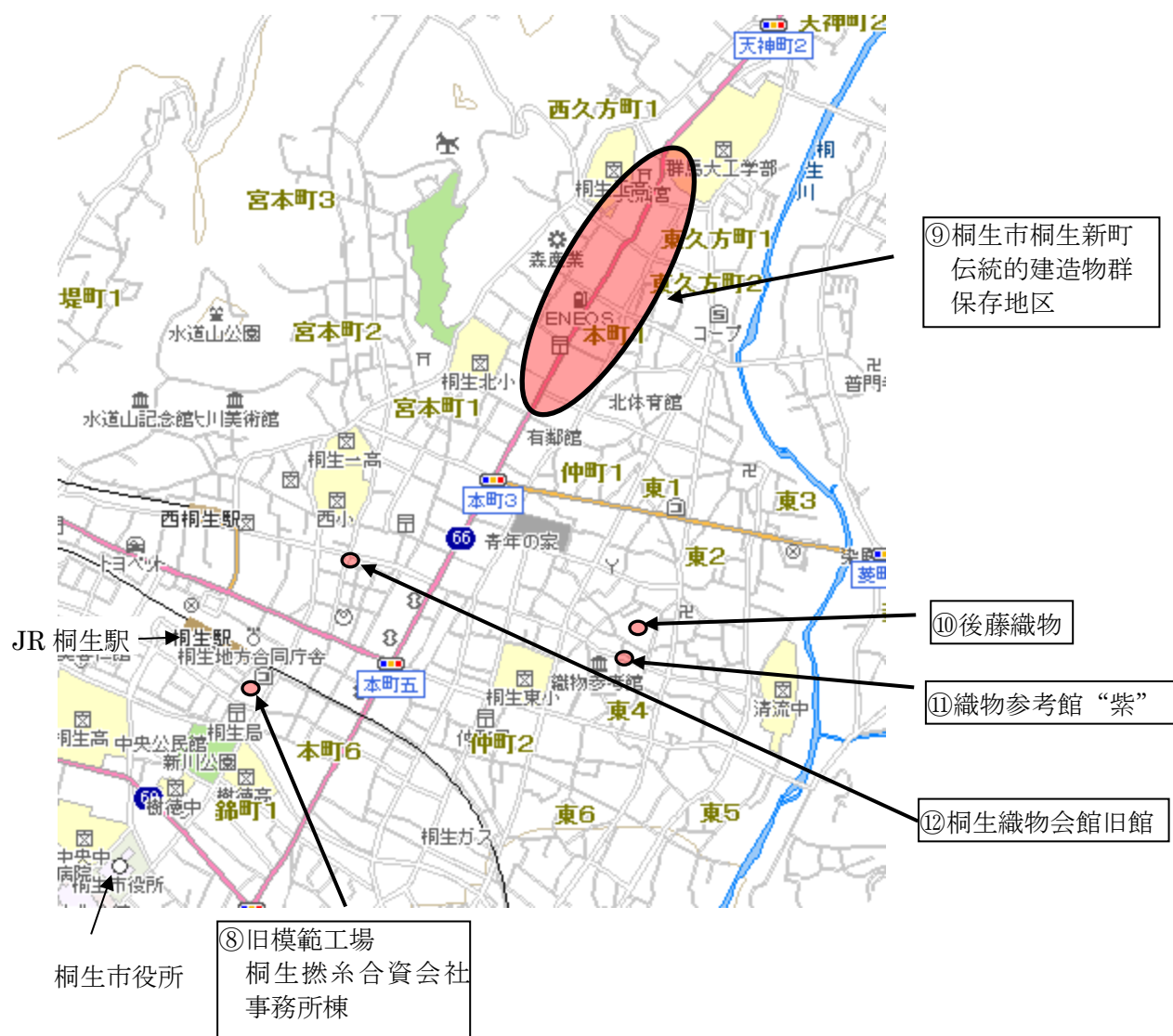
構成文化財の位置図（地図等）

3. 甘楽町



4. 桐生市





ストーリー

上州の農家には、大切にしまわれてきた絹の着物が眠っている。代々の女たちが、蚕を育て、糸をひき、布に織り、着物に仕立てた、晴れ着や婚礼衣装である。すべての技術は母から娘へ、地域の女達から少女達へと脈々と継承された。上州の女たち（かかあ）は、この養蚕・製糸・織物の力で家計を支え、家族の衣をつくった。男たち（夫）は、この働き者の女たちを「おれのかかあは天下一」と自慢し、上州名物は「かかあ天下」となった。美しい絹が織りなされる物語をたどると、日本独特の繊細なモノづくり文化とともに、誇りをもって家を支えた上州の女たちの姿が見えてくる。

機^{はた}の音、製糸の煙、桑の海

絹は、蚕という虫が作る繭から作られる。蚕は繊細な虫で、「お蚕さま」と呼ばれ、子どものように、家の中で大切に育てられた。蚕の世話は、家の中を切り盛りする女たちの重要な仕事である。特に、成長期には寝る間を惜しんで蚕に桑の葉を食べさせなければならない。女たちは、蚕の世話、他の農作業、食事作りと休む間もなく働き、農家の働き手の中心として活躍した。

そして、幕末から明治へ、上州が群馬県と変わる頃、絹が主要な輸出品として外貨獲得の切り札となると、県内の養蚕・製糸・織物はますます盛んになった。明治の文豪、徳富蘆花は当時の群馬県の様子を「機^{はた}の音、製糸の煙、桑の海」*と詠んでいる。この時代の流れに乗って、上州の女は益々活躍の場を広げるのである。*徳富蘆花の随筆「上州の山」明治32年

農家の財布の紐はかかあが握るべし

明治5年「富岡製糸場」が創業し、全国から少女たちが製糸工女として、また地域からは大量の繭が原料として、富岡に集められた。このような時、片品村の養蚕農家に嫁いだ「永井いと」は夫、紺周郎とともに繭増産のための養蚕技術の改良に挑み、夫亡き後もその意志を継いで、遂には永井流養蚕法の伝習所を設立した。いとは自ら教壇に立ち、講義の中で「**農家の財布の紐はかかあが握るべし**」と説いたという。農家の現金収入源である養蚕で、女性が活躍していたからこそその言葉である。

邑ニ養蚕セザルノ家ナク製糸セザルノ婦ナシ

やがて、女たちは養蚕や繭作りだけでなく、繭から糸を繰り出す技術（座繰り繰糸）にも磨きを掛けていった。このような農家は、組合製糸という形で共同して生糸を販売するようになり、糸の品質でも、生産量でも器械製糸に劣らず、日本の経済を支える存在となった。組合製糸を代表する甘楽社の碑には、「**邑ニ養蚕セザルノ家ナク製糸セザルノ婦ナシ**（村で養蚕をしていない家はなく、製糸をしていない女はいない）」とあり、まさに上州の女たち（かかあ）の活躍が印されている。彼女たちは、生糸を売って現金収入を得る傍ら、自家用の糸を少しずつ確保し、機織りをし、自分や家族の晴れ着を仕立てることも忘れなかった。そして、その着物と技術とを代々引き継



永井いと

いでいくのである。

西の西陣、東の桐生

日本製の生糸が世界を席巻するなかで、また、絹織物も発展していった。桐生は江戸時代から「**西の西陣、東の桐生**」と言われるように高級な絹の織物産地として知られていた。この桐生を支えたのも機織り女と呼ばれた周辺の村から集まった女たちであり、織物を伝えた白滝姫を祭る神社には、多くの機織り女が、織物の上達を願ってお参りした。

明治に入るとこの桐生の町並みには、ノコギリ型の屋根が特徴的な織物工場が数多く建てられていった。その中でさらに多くの女たちが織手として活躍した。また、撚糸*、染色、機拵え**にも女性たちが従事した。彼女たちが仕事の合間に外食をしたり銭湯に行ったり、お気に入りの着物や、時には洋服を着て歩いたりした町には、女性たちが活躍した足跡、商家や工場の町並み、その奥には寄宿舍や銭湯もしっかりとのこっている。桐生はそんな近代の女性たちの生活をずっと見つめてきたのである。*織物の種類に合わせて糸によりをかける作業。**紋織りのための準備作業。

現代の群馬にも、日本の絹織物の技術や文化が受け継がれている。農家の女性たちが生産に励む傍ら、自分や大切な家族のためつくった着物は、今でも大切に保存されている。織物の桐生には現在でも熟練の女性職人が働く現役の工場がある。日本伝統の美しい着物を着ること、そして懐かしい農家や織物の町並みを訪ねることで、日本を支えてきた「かかあ」たちの心に触れることが出来る。

「かかあ天下一ぐんまの絹物語ー」は、家族と地域を、そして日本を支えてきた女性「かかあ」たちの姿を、実際に、蚕に触れたり、繭から生糸をひいたり、絹布を織ったりして、体感していく物語である。

女性が絹の生産で活躍した家々。

機之音、製糸の煙、桑の海

富沢家住宅、中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区

女性養蚕指導者「永井いと」の功績を物語る建物

農家の財布の紐はかかあが握るべし

永井流養蚕伝習所実習棟

女性たちが座繰りでひいた糸を集め、輸出した組合製糸の代表的遺産。

旧小幡組製糸レンガ造り倉庫、

邑ニ養蚕セザルノ家ナク製糸セザルノ婦ナシ

甘楽町の養蚕・製糸・織物資料、甘楽社小幡組由来碑

織都桐生で、織物伝来の伝説を物語る神社から、今も女性が働く工場まで巡る。

白瀧神社、旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟、

西の西陣、東の桐生

桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区、後藤織物、織物参考館“紫”、桐生織物会館旧館



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	とみざわけ 富沢家住宅	国重文 ぐんま絹遺産	江戸後期の大型養蚕農家で、地元の村の名主を代々つとめた旧家である。運送業や金融業を行う一方、女性たちによる養蚕による功績は大きい。	中之条町
②	なかのじょうまちくに 中之条町六合 あかいわ 赤岩伝統的建造物 群保存地区	国重伝建 ぐんま絹遺産	明治後半から昭和中期にかけて養蚕が盛んに行われた地区で、集落の発展は養蚕や織物等で生計を支えた女性たちの活躍による所が大きい。	中之条町
③	ながいりゅうようさん 永井流養蚕 でんしゅうじょ 伝習所 じっしゅうとう 実習棟	村重文 ぐんま絹遺産	永井いとが、亡夫紺周郎の遺志を継いで設立した、永井流養蚕法の伝習所。講義の中で「農家の財布の紐はかかあが握るべし」と説いたという。	片品村
④	きゅうおばたぐみせいし 旧小幡組製糸 レンガ造り倉庫	町重文 ぐんま絹遺産	大正15年に甘楽社小幡組製糸工場の繭倉庫として建設されたレンガ造りの2階建ての建物。養蚕農家各家の女性が中心となって座繰りでひいた生糸をもちよって、作業場で品質をそろえて共同販売した。	甘楽町
⑤	かんらまち ようさん 甘楽町の養蚕・ せいし おりものしりょう 製糸・織物資料	ぐんま絹遺産	大正初期には約7割の世帯が養蚕農家だった甘楽町で使用された養蚕・製糸・織物に関する道具や資料333点。	甘楽町
⑥	かんらしゃおばたぐみ 甘楽社小幡組 ゆらいひ 由来碑	町重文 ぐんま絹遺産	大正6年3月に甘楽社小幡組組合員が、歴史を後世に伝え、益々の隆盛を図るため、小幡組由来碑を建設した。この石碑には、「邑ニ養蚕セザルノ家ナク製絲セザルノ婦ナシ」とあり、当地域の養蚕業と、それをけん引してきた女性達の関わりを伝える貴重な史料。	甘楽町
⑦	しらたきじんじゃ 白瀧神社	ぐんま絹遺産	桐生地方に絹織物の技術を伝えたと言われる白瀧姫を祀る神社。この織姫の伝説は江戸時代に確立し、絹商人や機織り女たちの信仰を集めた。	桐生市
⑧	きゅうもはんこうじょう 旧模範工場 きりうねんし 桐生撚糸 ごうしがいいしゃ 合資会社 じむしょとう 事務所棟	市重文 ぐんま絹遺産	明治から戦前まで稼働した大規模撚糸工場であり、工場内に学校を設置するなど女工に技術と教育を施し、会社が発展した。戦前の様子が動画に残っている。	桐生市
⑨	きりゅうしきりゅう 桐生市桐生 しんまち 新町伝統 的建造物群保存地区	国重伝建 ぐんま絹遺産	桐生織物の中心地として経済発展を支えてきた地区。商家と共に織物工場や寄宿舎、銭湯などが残り、工場の形態や女工の暮らしが偲ばれる場所。	桐生市

⑩	ごとうおりもの 後藤織物	国登録 ぐんま絹遺産	明治初期に洋式染色技術を導入し、織物の改良を行った工場。現在も帯地など織物生産を行っており、熟練の女性従業員が従事している。	桐生市
⑪	おりものさんこうかん 織物参考館 “ゆかり” 紫	国登録 ぐんま絹遺産	高級織物であるお召しの技術を今に伝え、織物会社とともに織物資料館を運営している。手織り機などの道具を公開し、女性従業員による説明や実演を行っている。	桐生市
⑫	きりゅうおりもの 桐生織物 かいかんきゅうかん 会館旧館	国登録 ぐんま絹遺産	桐生織物向上のために設立された桐生織物同業組合の事務所。かつて女子職員が電話交換手やタイプライター事務員などを務め業務を支えていた。現在は織物記念館として織物資料展示や物販が行われている。	桐生市
⑬	ながい 永井いと像	ぐんま絹遺産	永井いとは、夫紺周郎と共に永井流養蚕法を開発。夫亡き後に伝習所を設立し、養蚕法の講義の中で「農家の財布の紐はかかあが握るべし」と説いたという。かかあ天下の象徴的な人物。	片品村

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 富沢家住宅



② 中之条町六合赤岩
伝統的建造物群保存地区



③ 永井流養蚕伝習所実習棟



④ 旧小幡組製糸レンガ造り倉庫



⑤ 甘楽町の養蚕・製糸・織物資料



⑥ 甘楽社小幡組由来碑



⑦ 白瀧神社



⑧ 旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟



⑨ 桐生市桐生新町
伝統的建造物群保存地区



⑩ 後藤織物



⑪ 織物参考館“紫”



⑫ 桐生織物会館旧館



⑬ 永井いと像



(拡大)



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 地域活性化計画

① 将来像（ビジョン）

群馬県には、絹に関する遺産が数多く遺っているだけでなく、養蚕・製糸・織物のすべての段階の産業が現在も脈々と受け継がれている。そして、その最前線では元気な女達が今も産業を担っている。こういったユニークな地域の姿を日本遺産(候補)「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」としてくっきりと示すことにより、この地域の独特な絹文化を地域の人々がはっきりと自覚し、元気な「かかあ」の笑顔があふれる地域づくりを行う。さらにこの特色ある地域を国内外の多くの人々に訪れていただき、群馬が誇る絹の文化と女性達の活躍の物語に触れていただくことで、日本女性の力と気概を示す。そして、来訪者滞在時間の長期化、群馬の繭・生糸・絹のブランド化、蚕糸業の継承、絹を活用した製品の開発販売の促進等を通じ、地域に誇りを持つ住民が活躍し関連産業も活発な地域とする。

② 地域活性化のための取組

人から人に伝える

○「かかあ」たちの「ぐんまの絹物語」を継承し、国内外に向けて地域の魅力を発信する。

群馬県内に脈々と受け継がれてきた養蚕・製糸・織物の歴史と文化を将来に伝えるため、現役養蚕農家や織物の映像記録及び養蚕・製糸・織物経験者の方々の体験談等を記録し、広く情報発信する。情報発信は、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携して行うが、世界の絹産業の発展に貢献した世界遺産に対して、「かかあ」を中心とした庶民の家族の物語として、アピールしていく。

【主な取組イメージ】

- ・現在と過去の養蚕風景の映像記録をDVD化し、情報発信に活用する。
- ・座談会形式で養蚕・製糸・織物経験者たちの体験談を聞き取り、その内容を書籍にする。特に農業と家事の両面を担った女性の視点で編集する。
- ・女性の視点から編纂した蚕糸業史の作成
- ・共通パンフレット作成、ポータルサイトの開設

○絹の歴史や文化を知識だけのものに終わらせないため、体験・体感を主体とした遺産とする。

養蚕・製糸・織物経験者が自ら語り部となるとともに、若い世代のボランティアも育成し、来訪者へのガイド、養蚕・製糸・織物体験の指導を行う。

【主な取組イメージ】

- ・養蚕・製糸・織物経験者の座談会参加者（特に女性）などを含めた、体験指導ボランティアの掘り起こし
- ・既存のガイドの会や歴史学習の会などのメンバーを対象とした研修による遺産ガイドのスキルアップ
- ・体験指導ボランティア及び遺産ガイドの活動を自立的に継続させるため、その組織を育成。

物語を体感するための整備

○構成文化財の整備や展示・体験設備を充実し、遺産の価値の理解と魅力の向上を図る。

構成文化財の公開のための整備を行う。展示や体験の場として、構成文化財だけでなく、周辺の空家や公共施設、小学校の空き教室等も活用する。

【主な取組イメージ】

- ・「赤岩重伝建」の中にある空屋の整備による座繰り体験や組紐作りの場づくり
- ・「永井流伝習所」周辺施設を活用した、女性の活動に関する講話開催と養蚕の展示・体験
- ・「甘楽社小幡組由来碑」の覆屋設置（覆屋は碑文の現代語訳や当時の写真等により、学習の場、観光の回遊拠点としても活用する。）
- ・養蚕・製糸・織物体験施設の整備
- ・養蚕・製糸・織物の施設を江戸～昭和期の服装で見学するための着付け場所等の整備
- ・各構成文化財の展示、解説板の設置
- ・休息所・トイレ等の便益施設の整備

○構成文化財の周辺を整備し、当時の歴史的背景を伝えるとともに来訪者の利便性向上を図る。

構成文化財周辺の当時の生活や信仰の様子を伝える場所も含めて、回遊路を整備することにより、周遊観光や歴史学習の場としての魅力を高める。また、交通アクセスの向上と周知にも取り組む。

【主な取組イメージ】

- ・「永井流伝習所」周辺にある養蚕信仰の「穴観音」「蚕稻荷」への見学ルート及び駐車場整備
- ・周辺景観整備（無電柱化等）
- ・周辺道路、駅などへの案内板（導入板）の整備

地域も来訪者も元気になる事業

○日本文化の振興と、それを活かした観光振興を行う。

モデルツアーや日本伝統の着物や食を活用したモデルイベントなどを行うことで来訪者に「かかあ」たちの暮らしを体感してもらうとともに、地域の人々にも再認識してもらう。この外国人にも日本文化体験の機会として魅力を発信する。認定後集中的にモデル事業を実施することで旅行社や民間企業等へ認識の定着を図り、自主的なツアーやイベントが開催されるよう誘導する。

【主な取組イメージ】

- ・「かかあ」と「絹」に関する体験を盛り込み、宿泊旅行を促進するモデルツアー
- ・着物を着てのまち歩き、撮影会、その他のモデルイベント開催
- ・養蚕農家の”おこじはん”（おやつの方言）、おっきりこみの伝統食の提供と農家民泊
- ・「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」関連の紙芝居や養蚕信仰に関連する伝統芸能のイベント開催
- ・養蚕から織物まで、全ての構成文化財の連携で完成する、絹製の作品製作

○「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」に関連した特産品の開発による地域全体の活性化を図る。

構成文化財及びその周辺での展示解説、体験事業の際に、魅力的な絹製品、桑の葉や繭、絹を活用した菓子やその他特産品の販売を合わせて行うことで、商品開発・産業振興を促進する。大学・高校等

との連携も図っていく。

【主な取組イメージ】

- ・「ぐんまシルクロード巡り」「かかあ天下巡り」等と題したリレーイベントの開催
- ・女子大生や女子高生による「かかあ天下一ぐんまの絹物語―」関連商品開発の発表会
- ・「かかあ天下一ぐんまの絹物語―」ブランドの構築（開発と情報発信）

(2) 平成27年度補助対象事業計画

① 事業予定額（補助対象経費） 56,546千円

② 補助事業者

協議会等の名称 かかあ天下ぐんま絹物語協議会(仮称)

構成団体 自治体：群馬県、桐生市、甘楽町、中之条町、片品村

民間：検討中（下記は主な関連団体）

桐生新町まちなみ委員会、“織都桐生”案内人の会、甘楽町観光案内の会、

中之条町観光ガイドボランティアセンター、赤岩ふれあいの里委員会、赤岩重要伝統的建造物群保存活性化委員会、片品絹遺産の会、永井流養蚕術伝承会

③ 事業の概要

(I) 情報発信・人材育成事業（小計 8,656 千円）

- ・ホームページ作成費 1,000 千円×1.08=1,080 千円
- ・かかあ天下一まち歩き&体験ガイドブックの作成 40 円×40,000 部×1.08=1,728 千円
- ・養蚕風景の映像記録、DVD 化 2,000 千円×1.08 千円=2,160 千円
- ・書籍「かかあたちの養蚕日記―お蚕様と暮らした日々―（仮題）」出版
（※下記（Ⅲ）調査研究事業と連動企画、印刷製本費） 1,000 円×1,000 部×1.08=1,080 千円
- ・「かかあたちの養蚕日記―お蚕様と暮らした日々―（仮題）」簡略版パンフレット製作印刷費
30 円×20,000 部×1.08=648 千円
- ・体験指導ボランティア育成事業 250 千円×4 団体=1,000 千円
- ・ガイド団体 解説用資材・ユニフォーム支援 240 千円×4 団体=960 千円

(II) 普及啓発事業（計 15,290 千円）

- ・「ぐんまシルクロード巡り」「かかあ天下巡り」（仮題）リレーモデルイベントの開催
1,750 千円×4カ所×1.08=7,560 千円
- ・「かかあ」と「絹」に関する体験を盛り込み、宿泊旅行を促進するモデルツアー
2泊3日 2,240 千円×2回×1.08=4,838 千円
- ・養蚕・製糸・織物体験支援（協力者への謝礼） 180 千円×4 団体=720 千円
- ・女子大生や女子高生による「かかあ天下一ぐんまの絹物語―」関連商品開発の発表会
（開発支援300千円×4件）+（設営費900千円×1.08）=2,172 千円

(Ⅲ) 調査研究事業 (小計 3,780 千円)

- ・女性の視点から編纂した蚕糸業史の作成 (調査費 1 年目) $2,500 \text{ 千円} \times 1.08 = 2,700 \text{ 千円}$
- ・養蚕・製糸・織物経験者たちの体験談を聞き取り事業
(※上記 (Ⅰ) 情報発信事業と連動企画、調査費 1 年目) $1,000 \text{ 千円} \times 1.08 = 1,080 \text{ 千円}$

(Ⅳ) 公開活用のための整備に係る事業 (小計 28,820 千円)

- ・赤岩重伝建 展示・座繰り・組紐づくり体験設備 *内装・備品 $3,000 \text{ 千円} \times 1.08 = 3,240 \text{ 千円}$
- ・永井流伝習所整備事業 $7,420 \text{ 千円} \times 1.08 = 8,014 \text{ 千円}$
- ・永井流伝習所周辺整備事業／穴観音・蚕稻荷ルート整備 (整備 1 年目)
 $4,600 \text{ 千円} \times 1.08 = 4,968 \text{ 千円}$
- ・甘楽社小幡組由来碑の覆屋設置 $465 \text{ 千円} \times 1.08 = 502 \text{ 千円}$
- ・桐生市 織物等展示場整備事業 ノコギリ屋根工場工事費 (改修) 及び備品購入 *重伝建外
 $8,800 \text{ 千円} \times 1.08 = 9,504 \text{ 千円}$
- ・案内板・解説板設置 $200 \text{ 千円} \times 12 \text{ 件} \times 1.08 = 2,592 \text{ 千円}$

④ 成果目標

- ・イベント・体験の参加者数 2 倍以上
- ・モデルツアー参加者の満足度 80%以上

⑤他の補助金等により実施を計画している事業

機関・団体名	事業名	事業内容	事業費	補助額
文化庁				
		小計		
文化庁以外の省庁				
		小計		
国以外の公的機関、民間団体等				
		小計		
都道府県・市町村				

(様式 4)

			小計	
			合計額	

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
2	かかあ天下ーぐんまの絹物語ー

(1) 将来像 (ビジョン)

群馬県は、「絹の国（シルクカントリー）」と呼ばれるとおり、古くから養蚕・製糸・織物が盛んな地域であり、すべての段階の産業が現在も脈々と受け継がれている。長きにわたり発達した絹産業により、「おれのかかあは天下ー」とたたえられた働き者の女性たちの姿は、地域の生活様式や気性に深い影響を与えている。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」が絹産業の技術革新と技術交流を切り口としたストーリーであるならば、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」は絹産業を支えた女性たちのストーリーである。さらに県内各地に存在する「ぐんま絹遺産」を含めた3つのストーリーが、「シルクカントリーぐんま」を体現している。当地域の長期構想として、点在する日本遺産を、世界遺産やぐんま絹遺産と連携し、県全体で「シルクカントリーぐんま」を体感できる地域として国内外に発信していくことで、地域のブランド化やアイデンティティの再認識を促進し、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の認知度・ブランド力向上を目指す。

その実現にあたって、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」のストーリーをより伝え広めるために、構成文化財の更なる追加、充実化を検討していく。

新たな地域活性化計画は、従前の計画を引き継ぎ、先進的な女性の活躍や誇るべき絹文化が群馬県にあることを、地域住民や国内外からの来訪者、民間事業者により深く理解してもらうため、日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験できる仕組みを構築する。そして、地域における絹遺産・絹文化の継承及び絹産業の発展、滞在型周遊観光の創出につなげ、地域のインバウンド促進を含む観光振興及び活性化（観光入込客数や消費額の増加、にぎわい・活気があふれる地域の実現）に資することを目的とする。

絹産業とともに育まれた群馬の「土壌」に、女性活躍の先進地としての誇るべき物語が根付くことで、絹遺産や絹文化に愛着を持って主体的に継承に参画しているプレーヤー（地域住民）の活動の幅を広げることを目指す。また、日本遺産のストーリーを軸に、世界遺産や日本有数の温泉、豊かな自然と新鮮な食材など群馬県の強みを組み合わせ、絹産業とともに生きる人々の「暮らし」や家族と地域を支えてきた女性たちの「仕事ぶり」を来訪者が体感できる滞在型周遊観光を定着させ、滞在時間の増加を目指す。そして、民間事業者等が主体的にブランディングされた日本遺産関連商品の開発を行うとともに、その消費拡大を図ることを目指す。

また、群馬県の「新・群馬県総合計画」では、日本遺産をはじめとする文化資源を新たな観光資源として活用した観光誘客や経済活性化、さらにデジタル技術等を活用した文化観光の拠点整備を挙げているほか、現在策定中の「群馬県観光振興計画」（2024～2027）においては、本県の強みである歴史文化遺産や自然、食などの魅力を活かし、心と体を癒やす滞在型観光の一大拠点を目指している。

以上のことを踏まえ、日本遺産を核とした文化観光を推進することによって、地域経済を活性化させ、構成文化財の保存と活用に繋げるという好循環を官民共創で生み出していくことで、「シルクカントリーぐんま」を将来にわたって次世代に引き継いでいく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産のストーリーを体験した来訪者の数（日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	160,353 人	221,075 人	171,093 人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	225,000 人	230,000 人	234,000 人	238,000 人	242,000 人	246,000 人

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法
 （指標）目標の達成度をわかりやすく評価できるもの
 （目標値）数字が判明している 2022 年の 221,075 人を基準に、毎年約 2 % の上昇を設定（2023 年は 1 月までの実績）

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－B：上記来訪者の中で、日本遺産のストーリーについて理解・関心を深めた人の割合（地域での体験イベント等参加者数）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	543 人	1,934 人	1,082 人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	2,000 人	2,100 人	2,200 人	2,300 人	2,400 人	2,500 人

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法
 （指標）体験してもらうのみではなく、理解・関心を深めてもらうことが重要であるため
 （目標値）ガイド・体験型コンテンツへの参加者数を計上。2022 年の 1,934 人をベースに毎年 5% 程度増加

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域住民について、日本遺産のストーリーを認知・理解している割合 （上段は認知度、下段は理解度）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	72.2% 未集計	68.3% 未集計	56.5% 未集計			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	65% 30%	70% 45%	75% 50%	80% 55%	85% 60%	90% 65%
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法		（指標）（１）将来像（ビジョン）においても、地域住民が日本遺産のストーリーを理解していることが地域活性化につながることを記載しているため （目標値）認知度の 2024 年度は実績値（56.5%）を基準に設定。理解度の 2024 年は前年度の認知度の約半分で設定。以降は、いずれも対前年比 5 % ずつの伸び率を設定				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産の構成文化財の入館料・ガイド料（○桐生市：“織都桐生”案内人の会有料ガイド料、絹撚記念館観覧料、有鄰館施設使用料、重伝建地区公開活用使用料 ○甘楽町：甘楽町歴史民俗資料館入館料、観光ガイド料の合計 ※千円未満切り捨て）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	1,150,000 円	2,171,000 円	1,458,000 円			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	2,207,000 円	2,243,000 円	2,279,000 円	2,310,000 円	2,347,000 円	2,388,000 円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		（指標）経済効果を素早く計測するのに有効 （目標値）2029 年に 2022 年の 110%程度を目指す。				
目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が棄損滅失していない割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100%	100%	100%			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	100%	100%	100%	100%	100%	100%

指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	(指標) 目標にある「保存」の度合いを測るもの (目標値) 2023 年を維持
-------------------------	--

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域（桐生市・甘楽町・中之条町・片品村）の観光入込客数 ※暦年						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	5,559,500 人	6,260,600 人	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	8,300,000 人	8,383,000 人	8,466,000 人	8,549,000 人	8,632,000 人	8,715,000 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		（指標）目標の達成度をわかりやすく評価できるものとし、数値は群馬県「観光入込客統計調査報告書」より引用（該当市町村の数値を合計） （目標値）2024 年は 2020 年の実績に基づき設定。2029 年に 2024 年の 105%程度を目指す（毎年 83,000 人の増）				
目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：地域の外国人観光客数（宿泊者数）※暦年。関係市町村の外国人観光客数の把握方法がないため、県全体の数値を準用						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	17,290 人泊	46,670 人泊	211,300 人泊（11 月末時点）			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	292,000 人泊	394,000 人泊	497,000 人泊	600,000 人泊	732,000 人泊	864,000 人泊
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		（指標）目標の達成度をわかりやすく評価できるもの （目標値）群馬県観光振興計画の目標から引用。2024 年は 2019 年の実績 292,000 人。2027 年に 600,000 人泊の目標。2028 年以降も同ペース（毎年 132,000 人泊の増加）での上昇を設定				

(3) 地域活性化のための取組の概要

群馬県は、明治の産業革命以降、日本の基幹産業となった絹産業を全県で支えた地域であり、明治の文豪・徳富蘆花が「機音の音、製糸の煙、桑の海」と表現するほどであった。日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」以外にも、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に代表されるように、県内各地に絹に関連する文化財等が数多く残り、県登録制度「ぐんま絹遺産」に登録されているものだけでも106件にのぼる。

また、群馬県は、現在も全国一の養蚕農家数、繭・生糸生産量を誇っており、養蚕、製糸、織物といった一連の絹産業が生きている、日本最大の「シルクカントリー」である。

これまで、日本遺産の構成文化財のある市町村と群馬県を中心に、基本的な解説板・案内板や一部便益施設等の整備や情報発信、普及広報活動等を行ってきたが、認知度・理解の向上、来訪者のさらなる増加、周遊促進、インバウンド対策、日本遺産関連商品の開発等に課題が残っている。

そのため、計画期間である6年間で、第1期（令和6～7年の2年間）ブランディング戦略の策定、第2期（令和8～9年の2年間）ゲートウェイの機能強化、第3期（令和10～11年の2年間）海外を中心としたブランド力の向上に取り組むことで、「かかあ天下」の持続可能なブランディング化や地方創生のモデル地域の構築・横展開を図る。

1 「かかあ天下」ブランディング戦略の策定 第1期（令和6～7年）

これまで作り上げてきたコンテンツ（展示、ガイド、体験メニューなど）や情報発信ツール（日本遺産を巡るWEBサイト「きぬ旅」、絹遺産周遊アプリ「きぬめぐり」、動画など）、イベントやモニターツアーなどの結果を分析・評価を行い、専門家によるブランディング戦略を策定する。

策定にあたっては、各認定地域が抱える個別の課題及びニーズを踏まえた取り組みが必要であり、適切に指導・助言等を行うプロデューサー等を委嘱し、日本遺産のブランド力を高めていく必要がある。

次に、ブランディング戦略に基づく、広報活動ツールの作成や民間事業者とのコーディネートによるモデルツアーの実施等、「かかあ天下」のストーリーテリングを重視した情報発信モデルを構築する。

（主な関連事業）

■「かかあ天下」ブランディング戦略の策定・推進（事業番号2-A）

- ・プロデューサー等を委嘱しブランディング戦略を立案

■構成文化財ガイダンス施設等の多言語解説整備（事業番号4-A）

- ・幅広い、多くの方に「かかあ天下」のストーリーを理解することができるデジタルコンテンツの充実

■日本遺産関連の新商品開発（事業番号5-B）

- ・「かかあ天下」と地元の文化資源・食資源などを活かした商品開発
- ・「かかあ天下」のストーリーにマッチした地域の工芸品・食などの認定制度の創出
- ・販売まで想定した観光コンテンツ（体験メニュー、食など）の充実など

■「かかあ天下」ガイド人材育成・研修（事業番号3-A）

- ・観光客・インバウンド・学生等目線でのストーリーの編集

■通訳案内士・日本遺産ガイド等向け研修及びモニターツアー（事業番号5-A）

- ・受け手目線でのストーリーガイドの作成と地域ガイド・通訳案内士への研修の実施

■日本遺産×観光PR動画作成（事業番号7-A）

- ・「かかあ天下」の魅力や価値のポイントをわかりやすくまとめた、ショートPR動画の制作

2 「かかあ天下」ゲートウェイ機能強化事業 第2期（令和8～9年度）

世界遺産センター、令和6年度にオープン予定の「桐生市重伝建地区公開活用施設（通称：まちなか交流館。旧眞尾邸）」、中之条町の六合赤岩重伝建地区で令和9年度の開館を目指している「赤岩湯本家住宅」を、ストーリー理解を促す、地域のゲートウェイとして機能を強化する。

ゲートウェイ施設の展示整備、ゲートウェイを中心に地域住民や民間事業者などと連携したワークショップ・体験事業の実施、地域を周遊するための案内に係る整備等に取り組む。

また、世界遺産「富岡製糸場」内に、「かかあ天下」のストーリーを紹介するコーナーを富岡市と連携し新たに整備することで、ゲートウェイとしての機能を持たせる。

桐生市（桐生市重伝建地区公開活用施設）、中之条町（赤岩湯本家住宅）、富岡市（世界遺産センター、富岡製糸場）の3つのゲートウェイを整備し、周辺の絹遺産や観光資源と結びつけることで、群馬県内での滞在周遊観光の促進を図る。

＊「富岡製糸場」は文化観光拠点法の認定を受けており、拠点計画の中で整備予定。

養蚕業の担い手が減少していく中で、「かかあ天下」を持続可能にブランディングさせていくためには、その基盤となる養蚕業の継続が必要である。

そこで、「棚田」や「森林」を守るためのオーナー制度にヒントを得た「かかあ天下オーナー制度」の創設を検討する。オーナー制度は、一定面積の桑畑のオーナーとなり、その桑で飼育した「蚕」の生糸で生産された絹商品を受け取る仕組みを想定している。オーナー自身が「かかあ天下」の担い手となり、さらに「かかあ天下」絹商品開発にもつなげていく。

（主な関連事業）

■構成文化財ガイダンス施設等の多言語解説整備（事業番号4-A）※再掲

■「かかあ天下」ガイド人材育成・研修（事業番号3-A）※再掲

■通訳案内士・日本遺産ガイド等向け研修及びモニターツアー（事業番号5-A）※再掲

■日本遺産×観光PR動画作成（事業番号7-A）※再掲

■日本遺産関連の新商品開発（事業番号5-B）

■「かかあ天下オーナー制度」の創設（事業番号3-B）

3 「かかあ天下」ブランド力向上事業 第3期（令和10～11年度）

JNTOと連携した海外プロモーションの強化による「かかあ天下」の発信・誘客促進に取り組む。

インバウンドにも対応した普及啓発イベントの開催、ツーリズム EXPO への出展等による認知度・ブランド力の向上を図る。

（主な関連事業）

■「かかあ天下」ガイド人材育成・研修（事業番号3-A）※再掲

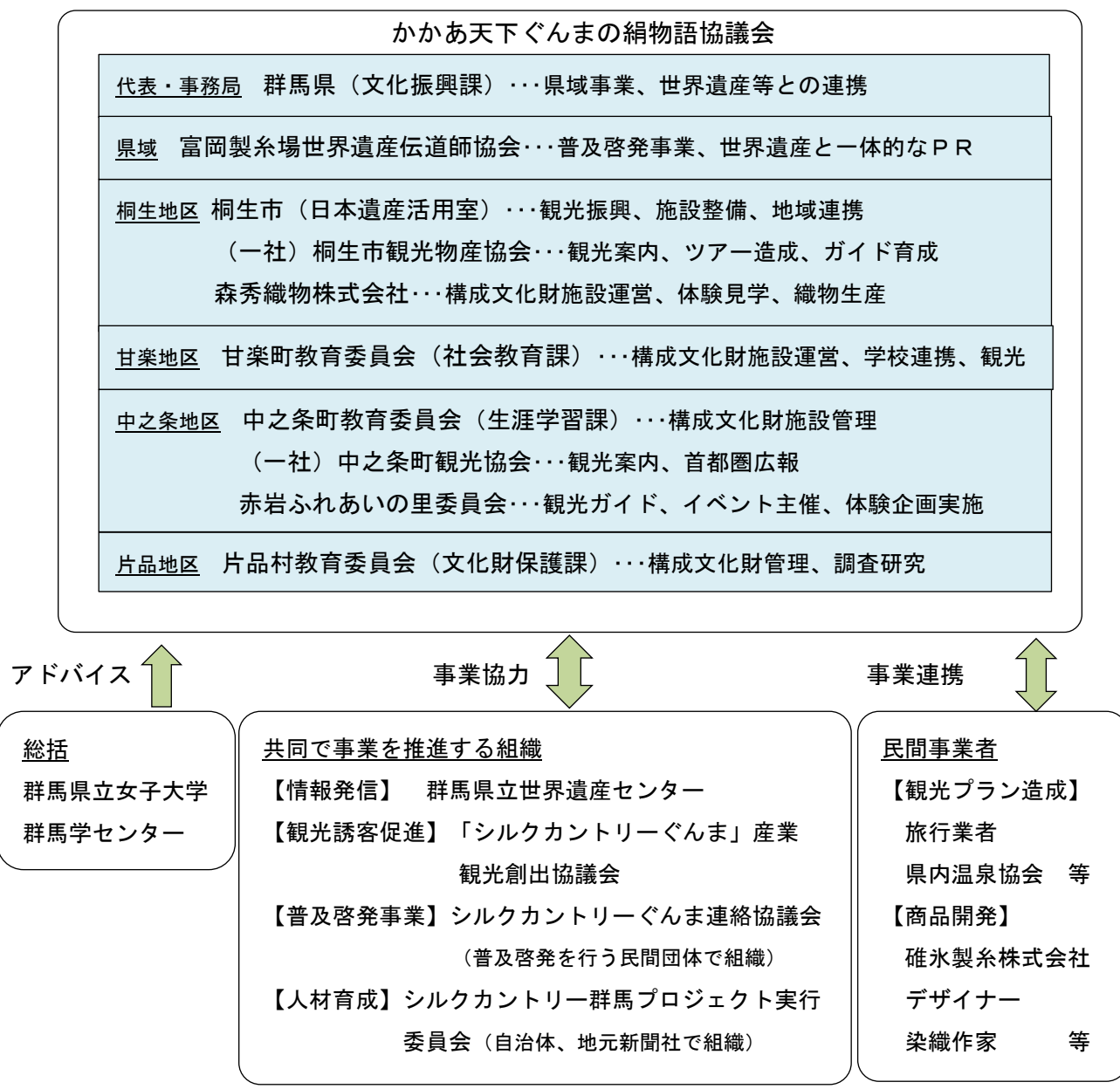
- 日本遺産×観光PR動画作成（事業番号7－A）※再掲
- 構成文化財ガイダンス施設等の多言語解説整備（事業番号4－A）※再掲
- 通訳案内士・日本遺産ガイド等向け研修及びモニターツアー（事業番号5－A）※再掲

（４）実施体制

これまで同様、協議会が中心となり、地域活性化計画に基づく取組を実施し、構成員や関係団体の事業の方向性を統一、調整する。また、年に複数回、地域振興部局、観光部局を巻き込んで開催している担当者会議を継続して実施し、実務者レベルの連携を強化する。必要に応じて、観光促進や商品開発といった目的別のワーキンググループを設置し、官民共創での施策検討を行う体制を整える。また、各地域で活動する県民団体と協働し、学校等での子ども向け普及啓発事業や、地域行事を継続して実施し、絹文化継承に取組む。

なお、観光事業化の取組を重視する観点から、協議会構成員である観光協会や民間事業者、DMOと連携し、滞在型周遊観光の創出に取組む。

【推進体制図】



[民間事業者との連携]

- ・各地域の観光協会や「シルクカントリーぐんま」産業観光創出協議会と事業協力しながら、滞在型周遊観光の推進に取り組む。特に、温泉地等の宿泊事業者や温泉協会と連携し、絹をテーマにした新たな宿泊プランの造成を進める。
- ・協議会構成員でもある、富岡製糸場世界遺産伝道師協会や赤岩ふれあいの里委員会を含む、認定地域で活動する10団体が行う普及啓発イベントや地域行事を支援し、来訪者の受入体制（ガイド、絹体験提供）整備や地域活性化の取組みを強化する。
- ・商品開発においては、碓氷製糸株式会社やデザイナー、染織作家、販売店で連携し、デザイン性を重視した絹製品を企画するとともに、オンラインも活用して、継続的な販売を目指す。
- ・上毛新聞社と連携した人材育成事業として絹に関する研究（歴史文化、女性活躍、観光、地域振興等）を支援し、研究成果を地域に還元する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

群馬県が事務局を担い、4市町村や民間団体をまとめていく。当協議会では協議会自体が行う事業に加え、各構成員が主体となって行う自主事業を活動の柱に据えている。

協議会の構成団体が収入を得られる事業の創出に取り組み、新たな事業を展開することで、日本遺産の魅力向上を図っていく。また、補助金やふるさと納税、企業からの協賛金等を活用しながら、DMO等と連携して体験ツアー等の観光商品化を進め自主財源の確保に努める。さらに、日本遺産全体の魅力向上に繋がる構成文化財相互の連携事業等を展開し、その成果を各事業者に還元していくことで自立・自走していく。

なお、クラウドファンディング実施についても検討する。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の保存活用により、観光魅力向上と来訪者の増加を実現し、地域経済を活性化させることで、さらなる文化財の保存活用を進めるという好循環を官民共創で生み出すため、以下の取組を実施する。

①周遊観光の確立

構成文化財や関連施設において、女性の姿を感じられる展示解説を拡充し、多言語化などのインバウンド対応を継続して実施することで誘客促進を図る。また、日本遺産のストーリーを軸に、実際に絹に触れる体験と、日本有数の温泉や自然、食などを組み合わせた滞在型周遊観光を確立し、認定地域への来訪者増加、観光消費額増加を図る。

②日本遺産の保存活用を目的とした「ふるさと納税」の活用

群馬県及び桐生市においては、法人からの寄附やふるさと納税の一部を基金化し、日本遺産の保存活用に充てる取組を継続するとともに、寄附額の増加を目指す。また、桐生市では令和3年度から「企業版ふるさと納税」を日本遺産活用事業に活用している。

③まちづくり施策との連携

歴史的風致維持向上計画（桐生市、甘楽町）、重要伝統的建造物群保存地区保存計画（桐生市、中之条町）などと日本遺産を連動させ、周辺地域との一体的なまちづくりを進める。

④継承の担い手を育成

構成文化財を拠点に活動する民間団体の取組を支援することで、地域全体のにぎわいを創出する。各地域で行っている有料観光ガイドの質向上や、学校での普及啓発事業の充実

を図り、歴史文化に興味を持つ人を増やすとともに、主体的に文化財や絹遺産、絹産業の継承に参画する人材を育成する。

⑤絹産業の維持発展

群馬県蚕糸技術センターが開発したオリジナル蚕品種を使った生糸、絹製品をブランディングした「ぐんまシルク」や桐生で生産される質の高い織物、化粧品などの絹関連商品の需要拡大を図ることで、群馬の絹産業への関心を高め、養蚕を中心とした絹産業への新規参入をきっかけとした移住・定住者を増やす。

⑥「かかあ天下」新商品開発

「かかあ天下」ブランディング戦略による構成資産の魅力向上に取り組み、構成団体が活用等で得た資金を活用して、構成文化財の保存や活用の促進、活用内容の充実等、更なる磨き上げに取り組むよう働きかける。

また、日本遺産のストーリーを体験してもらう事業により経済効果を生み出すため、体験コンテンツやストーリー関連商品の開発・販売等を行う。

(7) 地域活性化のために行う事業			
(7) - 1 組織整備			
(事業番号 1 - A)			
事業名	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会の運営		
概要	日本遺産推進母体として、かかあ天下ぐんまの絹物語協議会の運営を継続する。総会や担当者会議に加え、新たな地域活性化計画推進のためのワーキンググループを開催する。また、自治体や民間団体が行う日本遺産事業の全体調整進捗管理などを行う。 また、日本遺産活性化推進・魅力増進事業や日本遺産フェスティバル等イベント、HP、SNS等の情報発信、地域間連携事業を行うための企画・実施、関係者間の調整等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	会議の開催	総会、担当者会議、ワーキンググループ	協議会
②	情報発信	日本遺産フェスティバル等イベント、HP・SNS運営等	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		25
2022			26
2023			27
2024	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		27
2025	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		27
2026	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		27
2027	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		27
2028	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		27
2029	協議会又はその構成員が企画・実施した事業の数		27
事業費	2024 年度：40 千円 2025 年度：40 千円 2026 年度：40 千円		
継続に向けた事業設計	群馬県が事務局を担い、4 市町村や民間団体をまとめていく。当協議会では協議会自体が行う事業に加え、各構成員が主体となって行う事業を活動の柱に据えている。各構成員の事業が継続できるよう協議会で活動の可視化を行っていく。		
事業費	2027 年度：40 千円 2028 年度：40 千円 2029 年度：40 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	「かかあ天下」ブランディング戦略の策定・推進		
概要	分析の即時性や効率性を重視した WEB アンケートを継続する。来訪者や地域住民など、ターゲット別のアンケートを定期的実施することで、日本遺産のストーリー認知度や来訪者ニーズ等の課題を的確に把握し、事業計画や自治体の各種計画の改善、見直しに役立てる。 協議会においてアンケート等を基にこれまでの取組を評価・分析し、「かかあ天下」ブランディング戦略を策定する。また、日本遺産を活用するための総合的な企画・立案を行うプロデューサーやアドバイザーを委嘱し、構成資産間の連携やブランディング化に取り組む。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	WEB アンケート	構成文化財を訪れたことのある者に対して、WEB アンケートを実施し、その集計結果を分析する。	協議会構成員（群馬県）
②	「市民の声」アンケート	旧市民（18 歳以上、2000 人）に対し隔年で実施するアンケートの項目で、遺産の認知度や構成文化財への訪問歴や自由意見の集計結果を分析する。	協議会構成員（桐生市）
③	「かかあ天下」ブランディング戦略の策定	地域全体を牽引するプロデューサー的人材を委嘱しストーリーを体験できる事業や商品開発等を継続的に生み出す仕組みを検討する。	協議会
④	P D C A サイクルを回す仕組みの整備	各事業の目標値の計測を共有し、事業の効果や課題、必要な対応について協議する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数		7
2022			7
2023			7
2024	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数（これまでの取組の評価・分析）		7
2025	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数（ブランディング戦略策定）		7
2026	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数（効果や課題等を事業に反映）		7
2027	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数（効果や課題等を事業に反映）		7
2028	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数（効果や課題等を事業に反映、戦略見直し等）		7
2029	協議会の会議回数及び地域ごとの協議回数（効果や課題を事業に反映、戦略見直し等）		7
事業費		2024 年度：1,000 千円 2025 年度：1,000 千円 2026 年度：1,000 千円	

継続に向けた事業設計	協議会事務局である群馬県と関係４市町村等とで、定期的かつ臨機応変に会議の場を設ける。今後の方針や課題について共有を行いながら、連携して「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」の事業を推進していく。		
事業費	2027 年度：1,000 千円 2028 年度：1,000 千円 2029 年度：1,000 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名	「かかあ天下」ガイド人材育成・研修		
概要	観光客目線でストーリーを編集し、受け手目線で伝えるためのガイド研修を実施する。 桐生市では、市内の小中学生及び高校生を桐生市の観光ガイドのスペシャリストとして養成するため、日本遺産に特化した「子ども観光ガイド養成講座（日本遺産編）」を開講する。 また、桐生市の産官学民で取り組むオリジナル教育プログラム「未来創生塾」の塾生を対象に日本遺産講座を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光客目線に合わせたストーリーの制作	観光客、インバウンド、学生等の多様化する観光客の目線に合わせたガイド用ストーリーを研究・制作する。	協議会
②	ガイド研修	受け手目線でストーリーを伝えるためのガイド研修を行う。	協議会
③	子ども観光ガイド養成講座（日本遺産編）	年度内に５回の講座を実施し、座学や現地見学を組み合わせで行う。	協議会構成員（桐生市）
④	日本遺産講座	将来のガイド人材育成のための日本遺産講座を実施する。	同上
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	地域ガイド数		341 人
2022			341 人
2023			328 人
2024	地域ガイド数		330 人
2025	地域ガイド数		330 人
2026	地域ガイド数		330 人
2027	地域ガイド数		330 人
2028	地域ガイド数		330 人
2029	地域ガイド数		330 人
事業費	2024 年度：1,042 千円 2025 年度：1,042 千円 2026 年度：1,042 千円		
継続に向けた	既存ガイドの高齢化や人口減少によりガイドのなり手確保が難しい現		

事業設計	状がある。子ども等幅広い世代に対して人材育成を図っていく。 減少傾向にあるガイド数について、2024 年以降人数を維持していく。		
事業費	2027 年度：1,042 千円 2028 年度：42 千円 2029 年度：42 千円		
継続に向けた 事業設計	同上		

(事業番号 3－B)

事業名	「かかあ天下オーナー制度」の創設		
概要	「かかあ天下」のブランディング継続の基盤である養蚕業と連携して、 桑畑のオーナー制度を創設し、その桑で飼育した「蚕」の生糸で生産さ れた絹商品を受け取る仕組みを創設する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	オーナー制度の創設	桑園のオーナーを募集し、制度を創設する。ま た、オーナーには、桑園の管理や養蚕を体験す てもらったり、その桑畑で作った蚕から作 られた商品を受け取る仕組みを検討する。	協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	未集計		—
2022			—
2023			—
2024	—		—
2025	—		—
2026	—		—
2027	—		—
2028	オーナー		10 人
2029	オーナー		15 人
事業費	2024 年度：一千円 2025 年度：一千円 2026 年度：一千円		
継続に向けた 事業設計			
事業費	2027 年度：一千円 2028 年度：300 千円 2029 年度：500 千円		
継続に向けた 事業設計	オーナーからの負担金により事業継続を図る。		

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名		構成文化財ガイダンス施設等の多言語解説整備	
概要		「かかあ天下」滞在型周遊観光のターゲットとするインバウンド客にストーリーの文化的・歴史的背景を分かりやすく伝えるため、ネイティブライターによるインバウンド目線でのストーリー紹介文等を作成する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	女性の暮らしや仕事ぶりに着目した展示解説等の作成	ネイティブライターに構成文化財を訪ねてもらい、展示解説やストーリー紹介文を作成する。 (桐生市→甘楽町→中之条町→片品村)	協議会構成員(群馬県)
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	外国人宿泊者数		17,290 人泊
2022	＊暦年、関係市町村の外国人観光客数の把握方法がないため、県全体の数値を準用		46,670 人泊
2023			211,300 人泊(11 月末時点)
2024	外国人宿泊者数		292,000 人泊
2025	外国人宿泊者数		394,000 人泊
2026	外国人宿泊者数		497,000 人泊
2027	外国人宿泊者数		600,000 人泊
2028	外国人宿泊者数		732,000 人泊
2029	外国人宿泊者数		864,000 人泊
事業費		2024 年度：一千円 2025 年度：一千円 2026 年度：1,000 千円	
継続に向けた事業設計		インバウンドの受入体制を整備することで、外国人観光客宿泊者数ひいては収入の増加を図る。	
事業費		2027 年度：1,000 千円 2028 年度：1,000 千円 2029 年度：1,000 万円	
継続に向けた事業設計		同上	
(事業番号 4 - B)			
事業名		【中之条町】案内所施設整備（六合赤岩重伝建地区）	
概要		重要伝統的建造物群保存地区保存計画に基づき町が取得した地区内のシンボル・赤岩湯本家住宅を改修し、新たな案内所等として活用する。令和 8 年度までの完成を目指し、活用に向けて R5～8 年度に耐震補強や改修工事を行う予定。(R2～9 年度：238,793 千円)	
	取組名	取組内容	実施主体
①	湯本家住宅改修及び案内所整備	施設の保存・活用に向けた改修工事を実施する。	協議会構成員(中之条町)

②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		160,353 人
2022			221,075 人
2023			171,093 人
2024	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		221,075 人
2025	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		225,000 人
2026	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		230,000 人
2027	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		234,000 人
2028	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		238,000 人
2029	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		242,000 人
事業費	2024 年度：50,000 千円 2025 年度：70,000 千円 2026 年度：60,000 千円		
継続に向けた事業設計	耐震補強や改修工事により新たな案内所として整備することで、観光入込客数ひいては収入の増加を図る。		
事業費	2027 年度：3,000 千円 2028 年度：－ 2029 年度：－		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	通訳案内士及び観光事業者（エージェント、添乗員、観光タクシードライバー）向け研修及びインバウンド向けツアー		
概要	訪日外国人旅行者を案内するプロの観光ガイドである通訳案内士や観光事業者向けに、日本遺産の研修及びインバウンド向けモニターツアーを実施することでインバウンドの満足度向上につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	通訳案内士・日本遺産ガイド等向け研修	日本遺産のストーリーとその意義や価値、魅力をわかりやすく伝える（対象は、前半3か年は県内の通訳案内士が中心、後半3か年は首都圏の通訳案内士・観光事業者が中心）。	協議会構成員（群馬県）
②	インバウンド向けモニターツアー	構成資産をめぐるインバウンド向けモニターツアーを実施し、見どころを案内するとともに、口コミが広がる要素を含めることを意識したツアーとする（対象は東京等にロングステイしている外国人等を想定）。	協議会構成員（群馬県）
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	エージェント向けモニターツアー参加者数		8 人
2022			7 人
2023			7 人
2024	研修又はツアー参加者数		1 5 人
2025	研修又はツアー参加者数		1 5 人
2026	研修又はツアー参加者数		1 5 人
2027	研修又はツアー参加者数		2 0 人
2028	研修又はツアー参加者数		2 0 人
2029	研修又はツアー参加者数		2 0 人
事業費	2024 年度：1,022 千円 2025 年度：1,022 千円 2026 年度：1,022 千円		
継続に向けた事業設計	研修やモニターツアーを実施し、モニターツアーの満足度向上を図ることはもちろん、実際のツアー造成（商品化）へつなげる。		
事業費	2027 年度：1,100 千円 2028 年度：1,100 千円 2029 年度：1,100 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 5-B)

事業名		日本遺産関連の新商品開発	
概要		地域への経済波及効果を生み出すため、ガイドツアー、体験コンテンツ、ストーリー関連商品の開発販売等を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	4 日本遺産の連携による新商品開発	群馬の絹糸、徳島の藍、八王子の織物、山形の紅を使用した連携商品の研究・開発 「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー（群馬県）」 「藍のふるさと 阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～（徳島県）」 「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～（東京都八王子市）」 「山寺が支えた紅花文化（山形県）」	協議会
②	日本遺産関連商品の開発	日本遺産のストーリーを主とする旅行商品、シルク商品などの開発	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	—		—
2022			—
2023			—
2024	開発商品の売上		100 千円
2025	開発商品の売上		200 千円
2026	開発商品の売上		400 千円
2027	開発商品の売上		600 千円
2028	開発商品の売上		800 千円
2029	開発商品の売上		1,000 千円
事業費	2024 年度：100 千円 2025 年度：100 千円 2026 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	事業の収益を活用して実施する（商品の生産等）。		
事業費	2027 年度：100 千円 2028 年度：100 千円 2029 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	民間事業者が主体的に販売する。		

(事業番号 5-C)

事業名	桐生日本遺産ツアー、スタンプラリー等の実施		
概要	日本遺産への関心を高め、実際に訪れてもらうことを目的に、日本遺産を含む観光ツアーの造成や観光ガイドの実施、構成文化財をめぐる日本遺産周遊スタンプラリーを開催する。また、低速電動コミュニティバス「MAYU（まゆ）」を運行し、桐生新町重伝建地区やその他市内構成文化財を含む市内観光スポットの周遊を促進し、観光客の滞在時間増加、入込み客数増加を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	桐生市日本遺産ツアー	民間の旅行会社と協力して、構成文化財を含む観光ツアーの造成を実施する。	協議会構成員（桐生市）
②	スタンプラリー	夏休み期間を利用して、親子で構成文化財をめぐるスタンプラリーを実施する。	同上
③	観光ガイドによる案内	桐生の魅力を伝えるべく養成された観光ガイド団体「“織都桐生”案内人の会」による観光ガイドを実施する。	協議会構成員（桐生市観光物産協会）
④	低速電動コミュニティバス「MAYU」の運行	毎週土日（12/31～1/3を除く）無料で運行する。 ・重伝建コース（停留所として、重伝建地区内、織物参考館“紫”が含まれている） ・遊園地・動物園コース（停留所として、重伝建地区内が含まれている）	桐生市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	桐生市内の日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数（以下同じ）		28,874 人
2022			54,861 人
2023			47,697 人
2024	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		55,000 人
2025	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		55,000 人
2026	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		55,000 人
2027	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		60,000 人
2028	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		60,000 人
2029	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		60,000 人
事業費	2024 年度：6,667 千円 2025 年度：6,667 千円 2026 年度：6,667 千円		
継続に向けた事業設計	当協議会構成員の桐生市が実施。また、民間の旅行業者との連携することで観光客の滞在時間及び入込客数増加につなげる。		
事業費	2027 年度：6,667 千円 2028 年度：6,667 千円 2029 年度：6,667 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 5-D)

事業名		【桐生市】民間鉄道会社・観光事業者との連携	
概要		桐生市には4つの鉄道（JR、東武鉄道、上毛電気鉄道、わたらせ渓谷鐵道）が乗り入れていることから、鉄道会社と市が連携して本事業を展開。本ハイキングでは、桐生市及び足利市のおすすめスポットや日本遺産を巡ることが可能。 また、阪急交通社商談会へ参加しツアー造成に向けたPRを行うなど、連携を継続する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	四鉄道合同ハイキング	桐生市には構成文化財が6件あり、うち4件の「桐生織物記念館」「絹撚記念館」「織物参考館“紫”」「桐生新町重伝建地区」をハイキングでめぐることができる。さらに、足利市との連携により、日本遺産「近世日本の教育遺産群一学ぶ心・礼節の本源」の構成資産である「史跡足利学校」も散策できるコースとなっている。	協議会構成員（桐生市）が事業協力
②	阪急交通社との連携	阪急交通社の地域振興担当者と情報交換を行い、また、関東支部商談会へ参加し実際にツアー造成する全国各地の担当者向けにPRを行う。	協議会構成員（桐生市）
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	桐生市内の日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数（以下同じ）		28,874人
2022			54,861人
2023			47,697人
2024	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		55,000人
2025	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		55,000人
2026	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		55,000人
2027	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		60,000人
2028	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		60,000人
2029	日本遺産構成文化財関連施設への観光入込客数		60,000人
事業費		2024年度：27千円 2025年度：27千円 2026年度：27千円	
継続に向けた事業設計		民間鉄道会社の協力を引き続き取り付けることで、事業継続を図る。	
事業費		2027年度：27千円 2028年度：27千円 2029年度：27千円	
継続に向けた事業設計		同上	

(事業番号 5-E)

事業名		【甘楽町】体験事業	
概要		甘楽町の日本遺産構成文化財から徒歩圏内の道の駅「甘楽」（松井家住宅）において、毎月定期的に座繰り体験（繭から生糸を作る体験）と繭クラフト体験を開催する。また、桑の実収穫体験を実施。富岡製糸場や民間商業施設からの誘客を図り、町内構成文化財への周遊を促進する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	座繰り・繭クラフト体験	道の駅甘楽敷地内の「松井家住宅」で、講師により、座繰りと繭クラフトの体験を行う。	協議会構成員（甘楽町）
②	桑の実収穫体験	桑園を整備し、収穫体験ができる場を提供。桑の実は、「どどめ」や「マルベリー」と呼ばれ、かつて子どもがたちが外で遊びながら、この実を摘んで食べていた。当時の体験をすることができる。	同上
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		368 人
2022			1,002 人
2023			1,020 人
2024	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		1,100 人
2025	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		1,100 人
2026	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		1,100 人
2027	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		1,200 人
2028	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		1,200 人
2029	座繰り・繭クラフト、桑の実収穫体験参加者数		1,200 人
事業費		2024 年度：156 千円 2025 年度：156 千円 2026 年度：156 千円	
継続に向けた事業設計		当協議会構成員中之条町が実施。桑園等の地域住民と引き続き協力するとともに、集客力のある富岡製糸場や民間商業施設からの誘客を図る。	
事業費		2027 年度：156 千円 2028 年度：156 千円 2029 年度：156 千円	
継続に向けた事業設計		同上	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名	日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」シンポジウム		
概要	日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」の理解を深めるために、日本遺産の普及・推進に関わる人や文化的著名人を招いたシンポジウムを開催する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」シンポジウム	特に登録 10 周年である令和 7 年度は大規模に開催する。	協議会構成員（群馬県）
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	未集計		—
2022			—
2023			—
2024	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		30.0%
2025	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		45.0%
2026	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		50.0%
2027	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		55.0%
2028	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		60.0%
2029	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		65.0%
事業費	2024 年度：4,000 千円 2025 年度：4,000 千円 2026 年度：4,000 千円		
継続に向けた事業設計	多くの聴講者を集め、企業や団体等の理解と賛同を得て、協賛金の獲得を目指す。		
事業費	2027 年度：4,000 千円 2028 年度：4,000 千円 2029 年度：4,000 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 6-B)

事業名	学校教育と連携した普及啓発事業		
概要	自治体と民間団体が連携して小中学校での座繰り、繭クラフト、織物体験授業を実施する。若い世代に絹を身近に感じてもらい、地域への愛着を醸成し、将来にわたって絹文化を継承する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	市内学校向け織物体験	小学生（主に３年生）や中学校特別支援学級を対象に織物体験教室を実施する。	協議会構成員 （桐生市）
②	座繰り・繭クラフト体験出前講座	町内小学校への出前講座を実施し、小学生が座繰り・繭クラフトを体験する。	協議会構成員（甘楽町）
③	繭クラフト教室	「かたしなこども学校」での繭クラフト教室（学校３～４年生を対象）を開催する。	協議会構成員（片品村）
④	繭クラフトワークショップ	一般の方を対象にワークショップを実施する。	構成員（富岡製糸場世界遺産伝道師協会）
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	生徒児童への学習体験受講人数		1,549 人
2022			1,905 人
2023			1,844 人
2024	生徒児童への学習体験受講人数		1,900 人
2025	生徒児童への学習体験受講人数		1,950 人
2026	生徒児童への学習体験受講人数		2,000 人
2027	生徒児童への学習体験受講人数		2,000 人（少子化の中での人数維持）
2028	生徒児童への学習体験受講人数		2,000 人
2029	生徒児童への学習体験受講人数		2,000 人
事業費	2024 年度：30 千円 2025 年度：30 千円 2026 年度：30 千円		
継続に向けた事業設計	当協議会構成員が主体的に実施。地域住民（地域プレーヤー）と連携して事業継続。		
事業費	2027 年度：30 千円 2028 年度：30 千円 2029 年度：30 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 6-C)

事業名		【桐生市】日本遺産普及啓発イベント	
概要		桐生市の有鄰館（重伝建地区内）を会場に「日本遺産の日」展などのイベントを実施し、日本遺産の普及啓発を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	「日本遺産の日」展	2月に桐生市で行う「日本遺産の日」展で、市民の日本遺産認知度向上のための周知及び連携各市のPRブースを設置する。	協議会構成員（桐生市）
②	桐生市物産まつり	2月に桐生市で行われる桐生市物産まつり会場で、市民の日本遺産認知度向上のための周知及び連携各市のPRブースを設置する。	同上
③	館林市、足利市、八王子市、十日町市と連携したPR	日本遺産を保有し、3市共同宣言をした館林市、足利市、織物として共通する八王子市や十日町市と連携し、各市でPRをする	同上
④	企画展・パネル展示・ワークショップ開催	日本遺産の周知を図るために、企画展・パネル展を開催する。また、「織物」への関心を高めるため、「桐生織の角帯を使用したコースター作り体験」ワークショップを各種イベントにて開催する（絹襷記念館、有鄰館事務所内、重伝建地区公開活用施設（通称：まちなか交流館）等）。	同上
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	桐生市の日本遺産の認知度		48.8%
2022			56.8%
2023			42.3%
2024	桐生市の日本遺産の認知度		57.0%
2025	桐生市の日本遺産の認知度		58.0%
2026	桐生市の日本遺産の認知度		59.0%
2027	桐生市の日本遺産の認知度		60.0%
2028	桐生市の日本遺産の認知度		61.0%
2029	桐生市の日本遺産の認知度		62.0%
事業費	2024年度：40千円 2025年度：40千円 2026年度：40千円		
継続に向けた事業設計	当協議会構成員の桐生市が実施。他自治体と連携しながら事業を継続する。		
事業費	2027年度：40千円 2028年度：30千円 2029年度：30千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 6-D)

事業名		【桐生市】両毛3市連携事業（桐生市、栃木県足利市、館林市）	
概要		桐生市・足利市・館林市は、日本遺産を活かしたまちづくりや観光振興を推進していくとともに、両毛地域の日本遺産や地域の魅力を国内外に発信し地域活性化につなげるために、令和3年に「日本遺産両毛3市連携共同宣言」を締結し、連携して事業を展開している。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産シンポジウム	3市長によるパネルディスカッションを実施し、主に3市の市民へ向け、それぞれの市の日本遺産について普及啓発を図る。会場では日本遺産関連製品の物販やアトラクション等も実施する。また、令和6年度のシンポジウムは、桐生市で実施予定のイベント「日本遺産・織物フェスタ in 桐生（仮称）」と併せて実施する（予定）。	協議会構成員（桐生市）
②	3市連携による事業化検討	毎年実施しているシンポジウム以外にも、3市の連携による事業化を検討する。	協議会構成員（桐生市）
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		52.0%
2022			53.6%
2023			40.5%
2024	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		55.0%
2025	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		56.0%
2026	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		57.0%
2027	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		58.0%
2028	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		59.0%
2029	「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」認知度		60.0%
事業費	2024年度：900千円 2025年度：20千円 2026年度：20千円		
継続に向けた事業設計	引き続き3市で連携して事業を継続する。また、指標の認知度は協議会が実施するWEBアンケートにより把握する。		
事業費	2027年度：20千円 2028年度：20千円 2029年度：20千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 6－E)

事業名		【中之条町】赤岩ふれあい感謝祭	
概要		構成文化財の六合赤岩重要伝統的建造物群保存地区において、「赤岩ふれあい感謝祭」を県民団体と町が協働で開催する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	地産品の販売・絹体験活動	地元野菜等の販売、地元食材を使った食の提供、養蚕見学や座繰り・真綿掛け・はた織り・組紐ストラップ・生糸巻・繭クラフト体験など来場者が絹に親しむイベントを企画する。	赤岩ふれあいの里委員会、協議会構成員（中之条町）
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	赤岩地域での体験イベント等参加者数		—
2022			—
2023			450 人
2024	地域での体験イベント等参加者数		500 人
2025	地域での体験イベント等参加者数		500 人
2026	地域での体験イベント等参加者数		500 人
2027	地域での体験イベント等参加者数		550 人
2028	地域での体験イベント等参加者数		550 人
2029	地域での体験イベント等参加者数		550 人
事業費	2024 年度：300 千円 2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	当協議会構成員の中之条町が実施。引き続き団体と協力して事業を継続する。		
事業費	2027 年度：300 千円 2028 年度：300 千円 2029 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(事業番号 6 - F)

事業名		【甘楽町】養蚕・製糸・織物資料の常設展示	
概要		構成文化財である旧小幡組製糸レンガ造り倉庫を甘楽町	
	取組名	取組内容	実施主体
①	養蚕・製糸・織物資料の常設展示	構成文化財である旧小幡組製糸レンガ造り倉庫を甘楽町歴史民俗資料館に改装し、養蚕・製糸・織物資料を展示している。展示資料は 333 点で、資料館職員による解説等も行う。	協議会構成員（甘楽町）
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	甘楽町の日本遺産の認知度		60.0%
2022			55.2%
2023			43.8%
2024	甘楽町の日本遺産の認知度		60.0%
2025	甘楽町の日本遺産の認知度		61.0%
2026	甘楽町の日本遺産の認知度		62.0%
2027	甘楽町の日本遺産の認知度		63.0%
2028	甘楽町の日本遺産の認知度		64.0%
2029	甘楽町の日本遺産の認知度		65.0%
事業費	2024 年度：3,524 千円 2025 年度：3,524 千円 2026 年度：3,524 千円		
継続に向けた事業設計	当協議会構成員の甘楽町が実施		
事業費	2027 年度：3,524 千円 2028 年度：3,524 千円 2029 年度：3,524 千円		
継続に向けた事業設計			

(事業番号 6-G)

事業名	【片品村】民間集客施設での女性養蚕指導者「永井いと」展示及び体験事業		
概要	構成文化財「永井いと像」を展示している「花の駅・片品花咲の湯」で、観光客が多く訪れる尾瀬や天王桜の観光シーズンに合わせた展示を企画する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「永井いと像」レプリカ常設展示	年間約 12 万人が利用する「花の駅・片品花咲の湯」で、「永井いと像」のレプリカを常設で展示する。	協議会構成員（片品村）
②	道の駅尾瀬かたしな繭クラフト	道の駅来訪者に対して、繭クラフト体験（5 ～ 10 分程度）を実施する。	同上
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		101,627 人
2022			123,971 人
2023			86,563 人
2024	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		130,000 人
2025	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		130,000 人
2026	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		130,000 人
2027	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		130,000 人
2028	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		130,000 人
2029	片品村展示施設（花咲の湯）への観光入込客数		130,000 人
事業費	2024 年度： 0 千円 2025 年度： 0 千円 2026 年度： 0 千円		
継続に向けた事業設計	当協議会構成員の片品村が実施。引き続き集客力のある施設・スポットを活用し PR を図る。		
事業費	2027 年度： 0 千円 2028 年度： 0 千円 2029 年度： 0 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産×観光 PR動画制作		
概要	日本遺産を紹介する動画制作する。閲覧及び実際の訪問の一層の動機付けとなるよう、観光（食や体験等）を結び付けた内容とする。 また、英訳の字幕を付すことでインバウンドにも対応する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産×観光 PR動画制作（桐生市、甘楽町、中之条町、片品村／ショート）	動画のショートバージョンを制作。手軽に閲覧できるようにし、再生回数を伸ばす。	協議会
②	日本遺産×観光 PR動画制作（桐生市、甘楽町、中之条町、片品村／通常）	各市町の動画を1年に1つを制作（桐生市→甘楽町→中之条町→片品村）	同上
③	日本遺産×観光 PR動画制作（統合版）	②の4つの動画の統合版を作成。周遊を意識した構成とする。	同上
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	—		—
2022			—
2023			—
2024	動画再生回数		1, 000回
2025	動画再生回数		1, 500回
2026	動画再生回数		2, 000回
2027	動画再生回数		2, 500回
2028	動画再生回数		3, 000回
2029	動画再生回数		3, 500回
事業費	2024年度：1,500千円 2025年度：1,500千円 2026年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	当協議会（群馬県）が実施。関係4市町村と連携して訴求力のある動画制作を目指す。		
事業費	2027年度：1,500千円 2028年度：1,500千円 2029年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	同上		